

ブラジル日系移住者の食生活
その1 異環境における食行動
東筑紫短大 ○納身節子 中国短大 菅源江

目的 人の食習慣を変容する要因は数多いが、地理的条件（気候・地形・動植物など）と文化的条件の影響は大きい。これらの要因の中で食習慣の特色をつくり、伝統的食物選択行動を受け継いでいる。今回私達は、日本と風土を異にする熱帯圏（ブラジル国北部）農業移住者の異文化における食習慣の変容を、伝統的・非伝統的食物選択行動に視点をあて検討を行う。

方法 調査対象はパラ州トメアス日本人移住地（アマゾン河口から内陸部300km）の、戦前・戦後の移住者中、主として主婦50名を、調査票によるアンケート。面接で実態を把握した。分析するにあたり、日本料理を伝統的、ブラジル現地料理を非伝統的と規定した。さらに2つの料理パターンの比較基準概念をおいた。

結果 その1では、対象の条件（生活歴・家族関係）、食環境、行事食における料理（伝統的・非伝統的）の選択行動、生活意識などについて、移住年数別に3分類して比較検討し、変容要因・食行動の特色が把握できた。